

## 平成28年12月定例会 環境農林委員会の概要

日時 平成28年12月19日(月) 開会 午前11時36分  
閉会 午前11時54分

場所 第6委員会室

出席委員 小久保憲一委員長  
萩原一寿副委員長  
飯塚俊彦委員、新井一徳委員、石井平夫委員、伊藤雅俊委員、小島信昭委員、  
江原久美子委員、菅克己委員、石川忠義委員、柳下礼子委員

欠席委員 なし

説明者 [農林部関係]  
河村仁農林部長、篠崎豊農林部副部長、松村一郎農林部副部長、  
山崎達也農業政策課長、強瀬道男農業ビジネス支援課長、  
石間戸芳朗農業支援課長、持田孝史生産振興課長、岡眞司森づくり課長、  
大関早孝農村整備課長、田中誠農産物安全課長、岩田信之畜産安全課長

### 会議に付した事件並びに審査結果

- 1 議案  
なし
- 2 請願  
なし

### 所管事務調査

「次世代技術実証・普及センター(仮称)」による実証・普及体制について

【所管事務に関する質問（「次世代技術実証・普及センター（仮称）」による実証・普及体制について）】

柳下委員

- 1 先日の常任委員会では、この問題の報告が全くなかったので、附帯決議に基づいてどのように事業を行うのかと思っていたところ、委員長から、この報告のために本日委員会を開催すると聞いた。通常であれば、資料も事前に渡してもらって、ヒアリングなどの準備をしている。執行部の対応がよく分からないが、なぜ先日の委員会で行政課題報告を行わなかったのか。
- 2 私の地元所沢市では、大きなトマト農家があり、すごくおいしいトマトを作っている。埼玉スマートアグリ推進事業について聞いたところ、「私はボイラーで温室を温めているが、料金が安い。イオンを応援するくらいなら、補助してもらえないのか」、「久喜試験場は非常に遠いので、地元には何のメリットもない」という話をされた。データを一括管理していくとのことだが、各地域の一般のトマト生産農家にとって、具体的にはどのようなメリットがあるのか。

農林部長

- 1 執行部の中で、次世代技術実証・普及センターの実証・普及体制についてしっかり議論して、やっと委員の皆様にお伝えする機会を頂けるような整理ができた。本当に大変恐縮であったが、このたび緊急に説明のお願いをさせていただいた。

生産振興課長

- 2 実証・普及センターも含めて次世代技術の研究を久喜試験場で行う。例えば、CO<sub>2</sub>の施用、細霧冷房を使った温度管理、ICTを使ったこれらの統合的な制御などを実証していく。また、これらの技術に加えて、新しい資材の実証などもやっていく予定である。私も所沢市の農家を訪ねて、いろいろとお話を伺ったが、その中で「農家個人で新しい資材や新しい技術を導入するのは非常にリスクである」、「県でこのようなことをやってもらえるのは非常にありがたい」との話を頂いている。このようなメリットがあるほか、これらの技術が実証されて生産者の方へ普及できれば、収量の増加、品質の向上が図られると考えている。また、場所が遠いという点については、県内8か所にある各農林振興センターを通じて、また、農業技術研究センターの革新支援担当とも連携を取り各農家の隅々まで成果を浸透させたいと考えている。

柳下委員

- 1 しっかり議論してきたとのことだが、その議論は常任委員会までに何回くらいどういう形でやったのか。また、主な論点について示してほしい。
- 2 農林振興センターを通じて、農家の隅々まで成果が浸透するようにしていくとのことだが、収益が向上する保証はない。具体的にどのように行うのか。

農林部長

- 1 この事業を実行していく際には、県がしっかり主体となって、主導的に生産農家の皆様の声に応えていく必要がある。我々としても、生産者の声を丁寧に聴き、また、事業

の実施主体であるコンソーシアムの皆様にも声を聴きながら、様々なことを検討してきた。例えば、1年目にどういったものを作っていくかなどいろいろなことを考えてきたが、やっと皆様の前で御説明できる段取りとなり、このたび委員会を開いていただいたところである。御理解いただければと思う。

### 生産振興課長

2 例えば、農林振興センターごとに行なう研修会、それから生産者のところにおもむき、そこでの指導を通じて広めていきたいと考えている。また、久喜試験場は確かに遠いが、見学していただく、また、実証・普及センターができるのでその場で解説する、というようなことを通じて、農林振興センター・農業技術研究センター革新支援担当が連携した中でお示ししていきたいと考えている。

### 柳下委員

トマト農家の方たちは甘くておいしいトマトを作るために、本当に頑張っておられる。しかし、イオンがこの大きな施設を作った結果、トマトの価格が低下して、一般の農家では競争にならないという状況になってしまったら、何のための次世代技術実証・普及センターなのかとなってしまいが、大丈夫なのか。

### 農林部長

先ほども答弁したが、今後コンソーシアムが主体となり、県が主体・主導的な役割を担いながら、県内生産者への実証・普及にしっかり取り組んでいきたいと思っており、県内生産者の不安をしっかり払拭して、県内生産者が事業のメリットを享受できるように全力で取り組んでまいらる。

### 小島委員

今回までの委員会の審査を通して農林部長から説明があったが、本事業については、県内生産者の不安を払拭したり、県内生産者が事業のメリットを享受できるように取り組んできたこと、また、これからの事業実施に当たっては、県として留意すべきことも聞くことができた。我が団としては、県内園芸生産者の技術の向上や生産力の強化のため、県が責任を持って実証・普及を一元的に行う体制がおおむね整ったと判断する。そこで質問だが、久喜試験場は農家が非常に頼りにしている試験場であるから、トマトはもちろんだが、農家を支える研究施設として、今後も拡充していくつもりがあるのか。

### 農林部長

ただいま、大変重要な御指摘を頂いたと思っている。久喜試験場はもちろんだが、試験研究というものは、埼玉県の農家の方々の所得を上げていくために、必要不可欠であると思っている。縮小せずに拡充していく方向で、皆様方のお力も頂きながら全力で取り組んでいく。引き続き、御指導をお願いする。